

上田先生のお写真

森田 彰

上田先生は、実に楽しい方でした。その楽しさは、学生受けのするギャグや話題を連発される、と言うものではなく、上田先生が本当に学問を楽しんでおられる、そのお姿を私達が見て、こちらも楽しくなる、そんな性質の楽しさでした。それほど上田先生は、関わられた学問、特に言語について、実に楽しくご研究をされていました。

私は、第一文学部の学生でした。文学部には、言語系の講座が少なく、やはり先年鬼籍に入られた小島義郎先生や上田先生の講義を戸山から足を伸ばして受講させて頂いていました。学部の4年の時には、ゼミを聴講させて頂きました。写真は、その時、つまり1978年の夏にゼミ合宿で当時の追分セミナーハウス（軽井沢セミナーハウス）に行った折のゼミ集合写真（中央が上田先生）と信越線の車中の上田先生（p.7）です。ゼミ生達が、サングラスの上田先生のお姿を「上田の親分」などとからかっていた事（失礼!）を思い出します。今、先生のお写真を見てると、当時の



先生は随分とお若かったのだな、と思う反面、やはり既に老成され、私達の追いつけない先生として、写っていらっしやいます。

ゼミに参加するなど、準備万端に見えた私ですが、実はその年の大学院の入試に落ちて、やや（やや、ですが）シュンとしていました。そんな時、写真にも写っている小島謙一先生や、現在慈恵医大教授の小原平先生が誘ってくださり、無事？に次年度のゼミ合宿にも参加させて頂きました。なんと、図々しい学生だ、と今の私は思います。

実は、上田先生と私の父（森田貞雄早大名誉教授）は、早大文学研究科の同期でした。共にゲルマン語を専攻し、アメリカで学び、そして何よりもドイツ好きでした。負けず嫌いの父は、上田先生の欲しがりそうなドイツ製品を手に入れると、「上田くん、あれ手に入れたぜ。いいだろう。」などと、電話をしていました。今また二人で、バルハラの近所で何かを自慢をしあっているかも知れません。

（早稲田大学商学部教授）